

9/22
(月) 秋の全国交通安全運動

「日ぐれ時 キラリと光る 反射材」をスローガンに、秋の全国交通安全運動が実施されました。
秋の交通安全運動は、子どもと高齢者の交通事故防止を基本方針とし、運動期間中には水戸地区交通安全協会茨城支部や、茨城町交通安全母の会などが町内主要交差点などで交通安全指導を行いました。また、9月22日(月)には、交通安全関係団体などが集い街頭キャンペーンを実施。奥谷交差点において啓発品を配りながら交通安全を呼びかけました。
茨城町では、昨年の12月から交通死亡事故が発生していません(9月末現在)。町民の皆さまにおかれましては、引き続き交通安全を心掛け、夕暮れ時などに外出する際は反射材の着用をお願いいたします。



9/27
(土) 「泳げる涸沼」を目指して 涸沼浄化キャンペーン 歩く会



広浦小学校の児童とPTA、ブライトレイダーや地域の方々が協力し、昔のようなきれいな涸沼を取り戻そうと、「涸沼浄化キャンペーン 歩く会」を実施しました。
これは、地域全体で涸沼をきれいにするとともに、児童に親世代、祖父母世代が参加することにより、世代間の繋がりの強化を目的に実施されたものです。
参加者は複数のコースにわかれ広浦小学校を出発し、広浦公園までの道のりを、ゴミ拾いをしながら歩きました。参加した児童たちは、「ゴミをいっぱい拾えて気持ちよかった。」「一年生もがんばっていた。来年は今年よりゴミが減ればいいと思います。」などと感想を述べていました。

地域の景観を守るため、ボランティアの皆さまが活躍しています

茨城町道路里親団体

茨城町北部を横断する県道内原塩崎線。その道路沿い前田地区から上郷地区にかけて、花壇に四季折々の花々が咲いているのをご覧になった方も多いのではないのでしょうか。
この区間では、3団体(前田さくらロード環境美化の会、大戸下郷区清掃美化の会、上郷地区美化ロードの会)が道路を里子にみたく、里親として、花壇の整備などを行っており、過去には茨城県知事から表彰を受けたこともあります。安全運転を心掛けながら、道路を彩る花々をお楽しみください。



茨城町美化ボランティア

町美化ボランティア活動支援制度の登録団体である常和会(会長 雨谷 啓治氏、会員20名)では、定期的に地域の美化活動を行っています。
主な活動内容は、常井地区内の道路の除草や立木の枝払い、常井桜公園の除草や植栽整備などで、地域住民にも環境美化に関心をもってもらおうと積極的に活動しています。



※「茨城町美化ボランティア活動支援制度」の登録団体を募集しています。詳しくは、地域産業課までお問い合わせください。

【問合せ先】
地域産業課地域振興グループ ☎240-7124

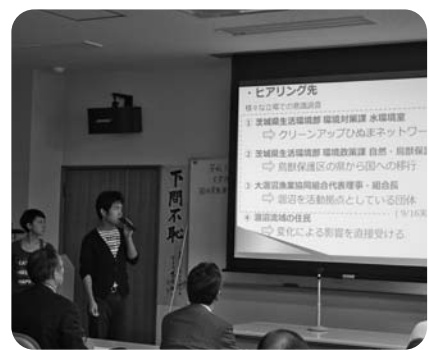
9/6
(土) スポーツの秋！ 青葉中学校で体育祭

初秋を迎え、各小中学校で運動会・体育祭が行われました。
9月6日に統合後初めての体育祭を開催した青葉中学校では、林豊夫校長先生が、「記念すべき1回目の体育祭。生徒の皆さんが主役、力をあわせてください。」と挨拶。
生徒たちは6チームにわかれ、応援合戦や選抜リレーのほか、生徒たち自らが考案したという風変わった障害物競走「つかむのは勝利だけじゃない！爆笑もとるんだ！」(写真：小麦粉がついたままの顔で決めポーズ)などを実施しチームの団結力を競いました。



9/17
(水) 涸沼を舞台にマップ作り・意識調査

茨城大学大学院の9名の大学院生が、サステナビリティ学(人間活動と自然環境が調和した持続型社会の構築を目指すための新しい学術体系)教育プログラムの一環として、茨城町内で2泊3日実践教育演習を行いました。



学生たちはラムサール条約湿地登録を目指している涸沼に着目し、現時点で考えられる課題の洗い出しを実施。マップ班と意識調査班にわかれて活動し、マップ班では、鳥の観察スポットのマップと観察スポットへ向かうための標識の原案を発表しました。また、意識調査班では、アンケート調査の原案を示し、町と住民が協力して環境を守り、魅力を伝える努力を行う必要があると提唱しました。
最終日に行われた報告会に参加した小林町長は、「涸沼と農産物のマッチングについてヒントを貰った。学生らしい視点からもっと突っ込んだ提案をして欲しい。」と今後の活動に期待を寄せました。

9/18
(木) 1世紀を駆け抜けた！ 百歳長寿をお祝い

老人福祉週間の18日(木)、小林町長は、本年度中に100歳を迎えるお年寄りを訪ね、戦中・戦後の大変な時期を潜り抜けてきた苦労を労い、その長年の功績を称え長寿を祝いました。
訪問した中の一人、茨城町中石崎の海老澤ゑいさんは(写真：左から3人目)、息子さん、娘さんたちに囲まれながら内閣総理大臣や茨城県知事、町からの褒状や記念品を受け取り、「ありがとうございます。100歳まで頑張って良かった。」と、喜んでいました。
ゑいさんは、自分の食事・掃除・洗濯・ごみ出しなど、自分のことは自分で言い、日中は趣味の手工芸を楽しんでいます。長男の千廣さんは、「戦争を潜り抜けて私たちを育ててくれた。まさに母は強し、だ。」と感謝の言葉を告げていました。

※本年度100歳を迎えるのは8人(女性8人)。101歳以上は23人(男性3人、女性20人)。最高齢者は、106歳がお二人です。

